

## 令和1年度(2019年度) 宣真高等学校 学校評価総括

## 1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えたい。規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校でありたい。創立百周年を見据え、伝統校としての信用・信頼に応える教育を実践する。

## 2 中期的目標

## 1. 学習指導の補強

- ①学習到達度の低い生徒への対応として、各学年ごとに定期考査の一定期間前から勉強会を設け、継続的な指名講習、希望者対象のまとめ講習を常態化する。
- ②コース・エリア独自に設定した授業、設定科目を見直して、希望する進路に寄与する知識・技能を習得させる。

## 2. 進路指導における自己実現能力の育成

- ①1年次から将来的な展望を探らせるために、職業体験や職業セミナーといった外部の催しに積極的に参加させて、多様な職種と自己の可能性について考察する機会を作る。
- ②教室外登校生や不登校生の転学・退学率を下げ、カウンセリング室対応等を通じて、学習・行事参加・進路保障の設定をより有意義な形にする。

## 3. 安全指導の強化

- ①痴漢・自転車事故・薬物被害、ネット犯罪等に遭わないよう、起こさないように防犯意識を高める。
- ②「いじめ」につながるトラブル・誹謗中傷を起こさないように、情報モラルと人権尊重意識を高める。

## 4. 教育支援活動の効率化

- ・学習、学校活動において困難な事由を有する生徒について、特に他の機関、組織と情報交換を行い、対象生徒の円滑な学校生活につながるような協力体制を合理化する。

3 本年度の取組および自己評価

中期的目標	今年度重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
1 学習指導の補強	①学習到達度の底上げ、欠点補習の定着	①課題や宿題を効果的に実施し、各学年で欠点保有者と科目を調査して、科目担当者を学年団からおのおの選び、補講教室と時間割を組んで生徒に公表する。まとめ講習は希望制で受け付ける。	①宿題の設定状況、呼び出し補習の実施期間、指名生徒参加率、考査での欠点者数の推移、欠点回復率、懇談時の保護者からの評価。	①成績不良者を対象に地道に教科別講習を行っており、考査での欠点者減少も結果が出ている。進んでまとめ講習を受けたいという積極的な生徒も増加していると報告されている。概して保護者からの満足的評価も聞かれる。反面、やはり理解力の高い生徒に割く時間が不足しているとの声も教員サイドからは多い。チャイム同時入室の徹底については、始業3分前チャイムの可能な、デジタルチャイムの導入を新年時に行う予定であり、速やかな授業態勢の確立を目指す。
	②コース・エリアの教育機会の拡充	②コースやエリアの指標をわかりやすく生徒に伝え、それぞれの到達目標と意義を生徒に強く認識させ、効果的な内容を工夫する。	②各教科、各コース、各エリアの行事や計画策定、選択講座の希望者数の分析と見直し、放課後講習の策定。	②コース別のガイダンス、外部説明会、コースセミナー、大学短大別のパスツターの計画などを今年度も同規模で実施できた。またアドバンスコースを中心にした国語英語の希望者講習も定着し、放課後の利用法も浸透している。看護系コースの予備校と提携しての90分課外授業は生徒の満足度が高い。アニメコースのイベントまんが祭でも生徒たちの実行力が発揮されて、自己の可能性に気づく場になっている。選択講座は、希望者数の偏りから内容や方向の是正を抜本的に行う予定である。
2 自己実現能力	①進路・職業に対する意識付け	①1年次校外の職業体験セミナー、進学相談会などに連れて行き、職種と勤労の意義を学ぶきっかけとする。進学・就職に向けての意欲を底上げし、進路未決者を減らす。ハローワークとの連携による筆記・面接対策の策定。	①実施回数、取組状況、進路決定率、面接練習の希望度	①就職希望者里の夏休み呼び出し設定は参加者の自覚を促し、決定率はほぼ昨年並み。継続の意義を確認できた。外部での各学年ごとの進学ガイダンス・職業体験セミナー、外部進学相談会に生徒を引率参加し、大小内外合わせて20回程度開催の達成状況。進路状況は昨年より卒業生数が30人少ないが、大学合格者数は増加した。短大専門学校は微減。例年通り面接に自信のない生徒が多いので、面接練習は活発に行われ、生徒の自信確立につながったと思われる。

<p>の育成</p>	<p>②不登校生への対応と進路保障</p>	<p>②段階を踏んでのカウンセリング室生の認定、学年における配慮生の選定、カンセリング室担当者の引率により、教室外登校生を各種進路ガイダンスに参加させる。校外学習、文化祭、体育祭等の学校行事にも進んで参加するよう誘導する。</p>	<p>②カウンセリング室生の行事・ガイダンスへの参加度、進路決定者数、カウンセリング体制のルール見直し</p>	<p>②カウンセリング室生同士の関係の調整、配慮生の選定については適切に行われている様である。行事参加状況も同室担任の引率の下、可能な範囲で参加がなされ、進路決定も本人の希望に沿う状態で、呼び出し講習もほぼ実施できている。多地域の子ども家庭センターからの報告連絡がやはり多いが、その対応と家庭環境の把握と学年担任との情報共有は遺漏なく進んでいる。</p>
------------	-----------------------	---	---	---

<p>3 安全指導の強化</p>	<p>①防犯・無事故につながる指導の徹底</p>	<p>①少年サポートセンターによる薬物講習、痴漢対策講習、薬物講習、また自転車の安全運転の講習の実施。長期休暇に入る前の各終業式での注意喚起のための訓示。</p>	<p>①実施内容、実施回数、講師、被害件数</p>	<p>①薬物講習、痴漢対策講習、自転車事故に関する交通安全講習を警察関係者や自動車学校を講師に招いて今年も実施。プロジェクトや寸劇を交えての講演は、生徒にも好評。トラブルや犯罪を遠ざけるために、最悪の事態を認識させることと、危険事象についての予備知識の必要性を感じる。自転車事故も毎年生じているので、雨の日の運転の危険性は必ず行わないといけない。</p>
	<p>②友人間トラブルを起こさない指導</p>	<p>②全体での情報モラル講習の実施。各学年の全体集合による、不用意な発言(SNS)の自制についての訓示を各学期に実施。</p>	<p>②生徒指導事故の発生率、学年指導内のトラブルの状況、SNSルール順守・違反の現場状況</p>	<p>②情報モラル教育と人権教育は学年別に全体HRで実施。さらにトラブル発生後にも再度情報モラル指導が学年HRで行われた。今年も1年での事故件数が多いのは公共心の未熟さ、他者への感応力の欠如ゆえと思われる。生徒間の人権意識を高め、教員に相談しやすい雰囲気作りを平素から心がけ、いじめの芽の早期発見に努め続けたい。また保護者からの要望の強い、スマホの登下校時の電源オンについては新年度から導入予定。</p>

<p>4 教育効率化活動の</p>	<p>支援学校、子ども家庭センターとの連携</p>	<p>豊中支援学校への相談、コーディネーター派遣要請、校内支援委員会との会合・連携、見守り対象者へのケア</p>	<p>相談対象生徒の個別指導案と教育支援教育案の完成度、保護者・担任・学年団との意思疎通連絡の頻度・見守り対象生徒家庭についての情報交換の頻度</p>	<p>学年とCR係が生徒・保護者とのやりとりと経緯について記録を取っているので、コーディネーターとの「分担」も明確になって、支援教育がまとめやすい。教員間の共通認識は過不足なく行われている。子ども家庭センターからの報告については迅速に対応でき、対象生徒の人権擁護の一助の役割を果たしている。</p>
-----------------------	---------------------------	--	---	---

#### 4 学校関係者評価

学校関係者は自己評価の結果を踏まえ、次のように評価している。

- ① 学校と家庭間の緊密な連携がとれているのは、とても望ましい傾向と評価できる。
- ② 授業の理解の進んでいる生徒に対するケアは、放課後希望者講習でフォローできているのか。実数をつかむのは難しいと思われるが、その数値的検証も課題にしてもらいたい。
- ③ 今の思春期の子どもは、年長者に面と向かって相談するより、ラインを通じてつながっている友人に相談するほうが抵抗がないので、自然、学校への相談率は低くなるだろう。だから現状のように学校としては行動面・交友面での生徒の予兆を見逃さないようにしてほしい。
- ④ 授業のわかりやすさについては、先生によって違うものなので、全体の割合を論じるより、全教員の研修などを増やしていったらどうか。
- ⑤ 最近の進学傾向について、保護者の方が知りたい聞きたいという傾向があるので、保護者向けのガイダンスを増やす体制は評価できる。
- ⑥ スマホの登下校時のオン許可は、校内使用禁止のルール厳守の上で、実行していく方針は評価できる。





|